

第3章 開催後の作業

3.1 開催報告

開催報告資料（3・4 頁）を作成し、成果報告会の開催翌週の平成 30 年 6/18(月)に実施した幹部会で報告した。

3.2 アンケート結果

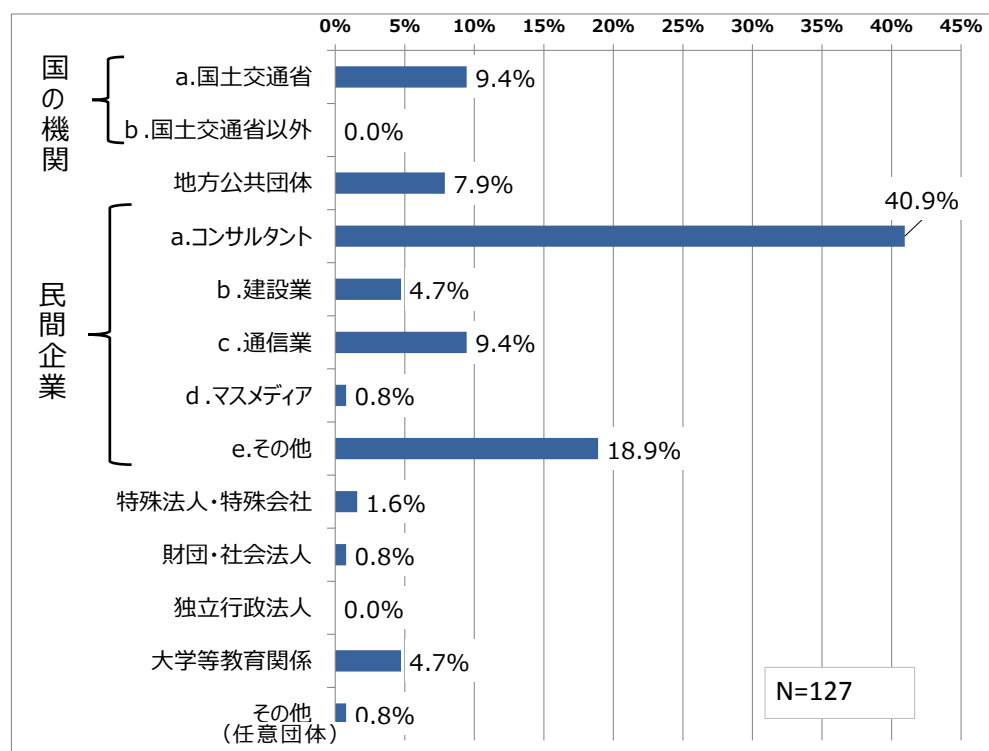
成果報告会当日にアンケート調査票を出席者に配付し、成果報告会終了後に 2.3 で示したアンケート調査票を回収した。その結果、127 人の有効回答が得られた。アンケートの集計結果を以下に示す。

【所属】

所属		人数	割合
国	a.国土交通省	12人	9.4%
	b.国土交通省以外	0人	0.0%
地方公共団体		10人	7.9%
民間	a.コンサルタント	52人	40.9%
	b.建設業	6人	4.7%
	c.通信業	12人	9.4%
	d.マスメディア	1人	0.8%
	e.その他	24人	18.9%
特殊法人・特殊会社		2人	1.6%
財団・社会法人		1人	0.8%
独立行政法人		0人	0.0%
大学等教育関係		6人	4.7%
その他		1人	0.8%
有効回答数		127人	100%

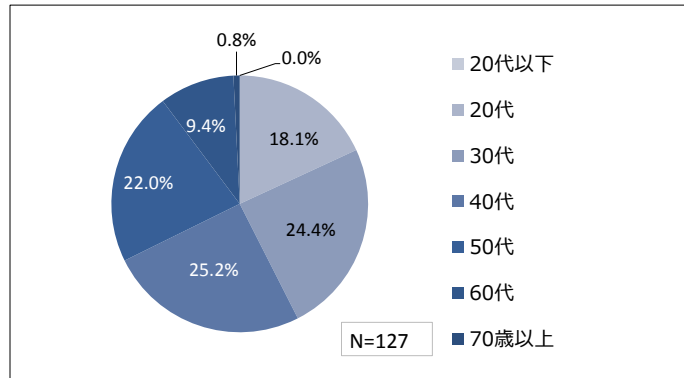
その他（詳細）

任意団体



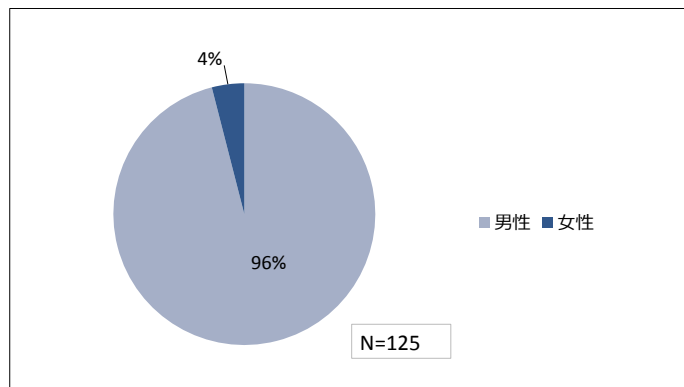
【年齢】

年齢	人数	割合
20代以下	0人	0.0%
20代	23人	18.1%
30代	31人	24.4%
40代	32人	25.2%
50代	28人	22.0%
60代	12人	9.4%
70歳以上	1人	0.8%
有効回答数	127人	100%



【性別】

性別	人数	割合
男性	120人	96.0%
女性	5人	4.0%
有効回答数	125人	100%

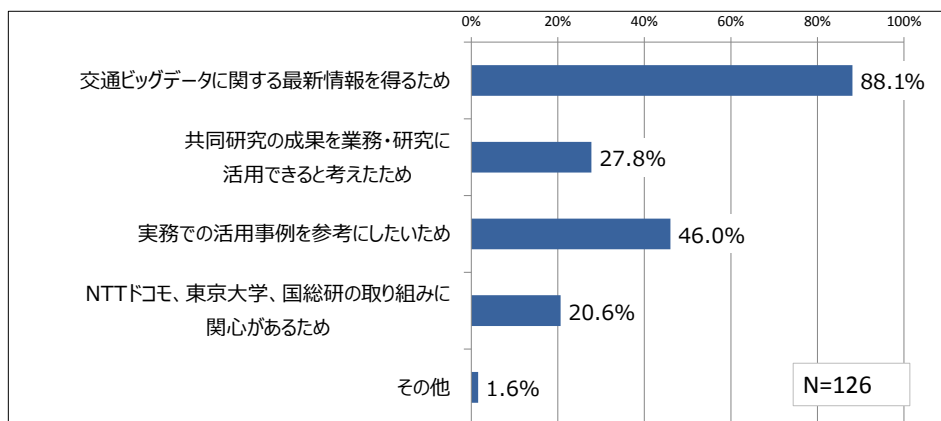


Q1 本日参加された理由をお聞かせ下さい(複数回答可)

回答	人数	割合
交通ビッグデータに関する最新情報を得るため	111人	88.1%
共同研究の成果を業務・研究に活用できると考えたため	35人	27.8%
実務での活用事例を参考にしたいため	58人	46.0%
NTTドコモ、東京大学、国総研の取り組みに関心があるため	26人	20.6%
その他	2人	1.6%
有効回答数	126人	100%

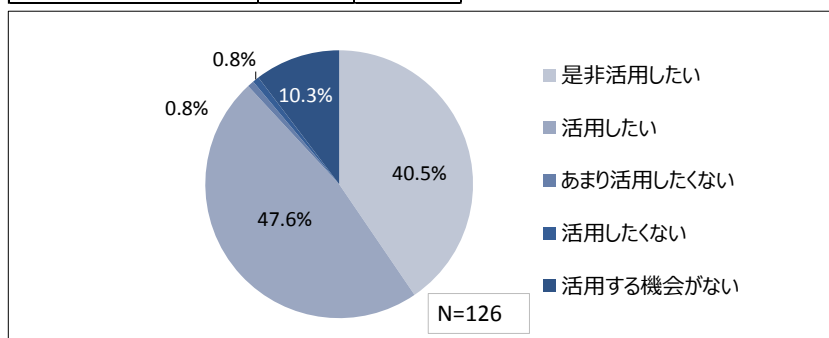
その他（詳細）

港工事、空港の防災、妨害対策に通ずるため



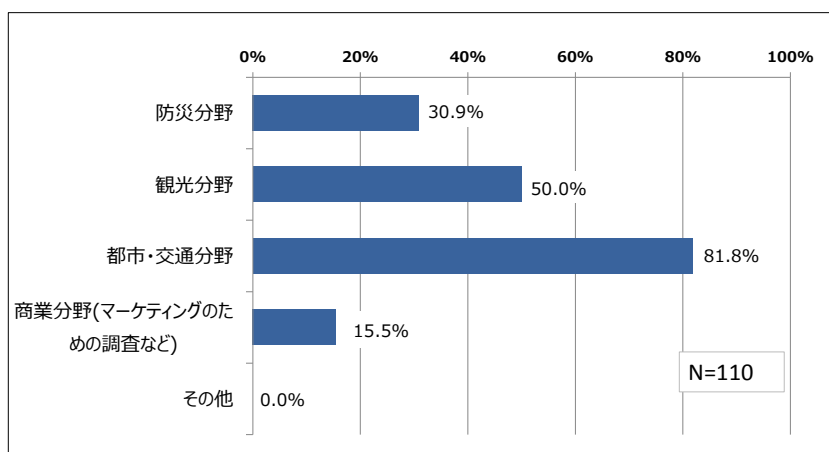
Q2 本日の成果報告会を聞いて、携帯電話基地局の運用データに基づく人の移動に関する統計情報を活用したいと思いましたか。

評価	回答	割合
是非活用したい	51人	40.5%
活用したい	60人	47.6%
あまり活用したくない	1人	0.8%
活用したくない	1人	0.8%
活用する機会がない	13人	10.3%
有効回答数	126人	100%



Q3 Q2にて、1または2を選択した方に伺います。どの分野で活用したいと考えていますか。選択肢の中から分野を選び(複数回答可)、想定している活用方法をお聞かせ下さい。

評価	回答	割合
防災分野	34人	30.9%
観光分野	55人	50.0%
都市・交通分野	90人	81.8%
商業分野(マーケティングのための調査など)	17人	15.5%
その他	0人	0.0%
有効回答数	110人	100%



想定している活用方法をご自由にご記入ください

【主な回答】

『防災分野』

- ・洪水や津波災害時の人の避難行動の把握
- ・緊急時の輸送手段の提案

『観光分野』

- ・観光実態調査
- ・観光客、入込客数や周遊ルートの実態把握

『都市・交通分野』

- ・都市マスタープラン策定
- ・プローブデータと組合せた交通量等の各種分析
- ・工事規制等による渋滞予測
- ・無電柱化計画の優先順位検討
- ・地方バス路線への改善提案

『商業分野（マーケティングのための調査など）』

- ・商圈分析
- ・商業施設等の集客

【回答一覧】

- 道路交通のOD推定への活用
- カーナビプローブと組み合わせての活用
- 日常の行動からの推測による行動や流量の変化が時間、イベント、曜日等で対策の準備に役立ちそう(ケース別対策の立案)
- 人流・交通流分析
- ダイナミックマップ上の動的情報等…将来的に使えないか
- 工事規制等による渋滞予測(ETC2.0+人口流動統計)
- 洪水や津波災害時の人の避難行動の把握に活用したい。防災計画に役立てられると良い
- 観光実態調査、都市マスタープラン策定
- 人口流動統計を活用した観光、交通計画
- 交通渋滞の対策、地方等の人口に対する交通手段の考え方
- ・無電柱化計画の優先順位検討 ・各種道路整備 ・観光交通の実態調査の補足データ
- 人の動き(流動)により効率的な大災害時の避難・誘導計画に活用できるので、緊急時の輸送手段に提案できそうである

- 人流、交通流の最適化のため
- PT の補充
- 都市施設の立地分析、商圈分析
- 運輸事業
- 今回の防災ビジネスには公開した報告はありませんでしたが今後期待します
- 自社データ(プローブ)との組み合わせ
- 観光客、入込客数や周遊ルートの実態のため(発注される業務対応のため)
- 大規模公園における利用実態調査
- 防災…首都直下等の大規模災害時における帰宅困難者支援対策
 - 観光…周遊観光等で観光に特化した流動の把握
 - 交通…公共交通再編への基礎データ、ETC2.0 との組み合わせによるプローブデータの精度向上、PT 調査の補完
- ETC2.0 データの交通分析・予測
- 施策の KPI 設定の参考にしたい
- 海外での応用
- ETC2.0 プローブ情報と組み合わせての活用
- 観光周遊で現状の把握や観光地の来訪者の把握
- 周遊観光分析、地方創生分析等
- 入込客数、商圈分析
- ・交通状況のモニタリングの高度化 ・インフラ整備に対する効果把握のツール
- ・駅前広場整備の予測 ・道路交通量 ・商業施設等の集客
- 観光の広域連携 交通計画 渋滞対策 IoH
- バス事業経営支援のツールとして 観光動態分析のツールとして
- 精度の高い流動データの取得による、バス路線再編検討での活用。ただし、地方部についてサンプルの少なさ、秘匿地域の出現について懸念あり
- 1 時間滞在未満を見ることができないのは、どれくらいの影響があるのかがポイント
- 交通渋滞の緩和、解消
- スマートシティ実現に向けた都市交通に活用できればリアルタイムにデータが使えるとありがたい
- 道路交通センサス、ETC2.0 以外からも交通分野の把握ができるのではないか
- 自動車交通に関しては、流動・総量把握か、道路政策の影響分析等のマクロ的な視点で活用を想定しています。
- ・観光交通施策の策定における基礎データ ・公共交通網施策の策定や評価のためのデータ

- ・人流把握(リアルタイムに近いデータ鮮度での活用) ・時間帯傾向＝防災分野での適用
- 訪日外国人の動向分析に活用したい
- 現在はデータを使っているだけなので、これから具体的な活用を考えていきたいです
- エリア内の人の移動(PT より細かい人の移動)、 経年変化の比較 、属性の違いの把握
- バスツールを通じ地方バス路線への改善提案

Q4 Q2 にて、3 または 4 を選択した方に伺います。3 または 4 を選んだ理由をお聞かせ下さい。

- 記事の執筆をする上では、テーマの参考にしたいです。
- 公共交通の分野での利用には、1 時間単位あるいは 500 メッシュの分解能が大きすぎる

Q5 その他、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

【主な回答】

『感想』

- ・すぐに活用という訳には行きませんが、引き続き動向をチェックしていきたいと思いました。
- ・今回のような報告内容を業務に活かせないか、今後検討したいです。
- ・本格的利用にあたってはかなりノウハウが必要に感じます。是非このプロジェクトを何らかの形で継続し、数年後には実践的な教科書のようなものを出版されることを期待しています。

『意見』

「他のデータとの連携」

- ・GPS データを利用していくことも重要と考えられるので、今後の研究課題とされることを望みます。
- ・今回は「ドコモ」だが「ホンダ」等のビッグデータとの関係を繋げて欲しいと思いました。
- ・今後交通系 IC カードとの組み合わせも期待できると考えています。

「費用」

- ・今後の交通、観光のコンサルタント業務で活用ができるように安価なデータ

提供を期待しています。

- ・データ入手単価や見積もり等を簡単にしたいです。
- ・費用面に大きな課題があるのではないのでしょうか。

「その他」

- ・どのビックデータも強み、弱みがあり補完し合いつつ、補正しつつ使っていくのが近道と考えています。
- ・このようなデータをビッグデータ化するだけでなく、オープンデータ化しないと活用が進まないと思います。
- ・利用可能調査について事例を提供したいです。
- ・研究開発の報告会(特に今回のキーコンテンツとするようなもの)は定期的に行ってほしいです。

【回答一覧】

- 大変興味深く拝聴いたしました。現在の自身の活動とは関連が薄いため、すぐに活用という訳には行きませんが、引き続き動向をチェックしていきたいと思いました。
- ドコモのデータは、親→子間であればサービス化プライバシーをオープン化してサービス化しても良いのでは？(防犯対策等)
- 今回は「ドコモ」だが「ホンダ」等のビッグデータとの関係をつなげていきたいと思った。ツールを使用する際の費用を知りたい。
- データ購入費用が課題
- 実用化にはまだまだかなと感じました。今後の発表に期待します。データ補完の一般的手法を望みます。
- 当社は、公共事業(主として国交省)に係る、電気、通信部門のコンサルを実施しているが、現在は、発注者から与えられた条件に基づいた業務を行っている。今回のような報告内容を業務に活かさないか、今後検討したい。
- 大変有意義な報告会で、充実した内容を計画された皆様に感謝いたします。かなりノウハウが本格的利用にあたっては必要に感じます。是非このプロジェクトを何らかの形で継続されまして、数年後には実践的な教科書のようなものを出版されることを期待しております。
- 午後のセッションは時間が短くデータ活用の何を検証しようとして、何が OK で何が NG(うまくいかない・他のデータが必要)なのかが伝わりにくかった。ビックデータ(人口流動統計)は万全ではないため実務で適用するさいの限界や留意事項について具体的に示してもらえるとありがたい。
- 専門的か先進的な内容で非常に面白かったです。今後の交通、観光のコンサル

- タント業務での活用できるよう安価なデータ提供を期待しています
- データ入手単価や見積もり等を簡単にしていただきたい。利用可能調査について事例を提供していただきたい。
 - GPS データを利用していくことも重要と考えられるので、今後の研究課題とされることを望みます
 - スライドと配布資料が一致している方の説明が分かりにくい(新階氏)
 - 研究開発の報告会(特に今回のキーコンテンツとするようなもの)は定期的に行って頂きたい
 - 当社利用でなく、当社お客様での活用が期待できるので、これからヒアリングして把握していく。
 - 繋ぐ・組み合わせる視点が重要。 どのビックデータも強み、弱みがあり補完し合いつつ、補正しつつ使っていくのが近道と考える。匿名加工情報制度もできたため、今後交通系 IC カードとの組み合わせも期待できると考える。
 - 早期にガイドラインを作成して欲しいです。
 - ・費用面に大きな課題があるのではないか? ・ こういうデータをビッグデータ化するだけでなく、オープンデータ化しないと活用が進まないと思う。
 - 大変参考になりました
 - 総合交通体系調査への適用を進めていきたいため
 - 事例を紹介する時間をとってほしい
 - 滞留 1 時間未満の通過地点を設定したときの秘匿がどの程度になるか興味がある

3.3 国総研ホームページでの公表

成果報告会及びアンケート調査の結果の周知のために、国土交通省 国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター 社会資本情報基盤研究室のホームページにおいて、成果報告会の開催報告及びアンケート調査の結果を公表した。その URL を以下に示す。

<http://www.nilim.go.jp/lab/qbg/houkokukai/20180611.html>